



板垣 良輔 議員
(日本共産党
幕別町議員団)



今年(1)は国連で核兵器禁止条約が制定された平和の記念の年である。戦後72年間の被爆者とその思いに賛同するたくさんの人たちの地道な運動が結実し、国際社会を動かすことになった。幕別町議会では、昭和60年に平和非核宣言を決議し、幕別町は、町内3か所に平和非核宣言と書かれた看板を設置している。また、平和首長会議に加盟しており、これまでも様々な事業に取り組んでいるが、今こそ平和推進事業を発展させるべきと考え、以下の点について伺う。

(1) 本町のこれまでの平和の取組。
(2) 平和の啓発事業について。①日常的に平和を意識する機会を提供する事業を多様に展開させるべきだと考えるがどうか。② 平和な未来を子供達に引き継ぐため、平和教育を推進させるべきだと考えるかどうか。

町長(1) 平和非核宣言の看板を町内3か所に設置したほか、平成

問

平和推進事業の更なる充実を

答

平和の大切さを再認識していただけるような機会を設けていきたい

22年には、被爆体験者を招き「平和祈念講演」を実施するとともに、これを機に千羽鶴を被爆地である広島市および長崎市に贈る運動を町民に呼びかけ、終戦記念日に合わせて、広島市の「原爆の子の像」と長崎市の「原爆資料館」に捧げており、この運動は現在も継続して実施している。毎年8月には、平和と非核を願う原爆パネル展を開催し、原爆被害の実態を風化させない取組をしている。原水爆禁止平和行進活動や原水爆禁止世界大会に参加する民間の方々との懇談・激励や活動に対する支援をはじめ「平和首長会議」の一員として、国連に対する核兵器廃絶に関するアピールや署名活動など、加盟都市と連携を図りながら取り組んでいる。

(2) ① 日本の被爆70周年、町の平和非核宣言から30周年という節目の年であった平成27年、次代を担う子供たちへ平和の大切さを伝える取組として、平和非核に関する標語の募集や平和非核宣言の紹介を



平和非核宣言看板
(札内中央町)

教育長(2) 平和に関する教育は、我が国郷土を愛する態度や国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うとともに、命の大切さを知り、

自他を大切にする思いやりの心を育てることにつながるから、学校の教育活動を通じて、適切な学びの機会を設けることが重要と認識している。今後とも各学校において、教育基本法および学校教育法に定められた目標の達成に向けて、学習指導要領に基づく平和に関する教育活動が、着実に実施されるよう指導していきたい。

◆幕別町平和非核宣言

(昭和60年12月23日)

世界の平和と安全を実現することは、人類共通の願いである。核兵器は人類社会はもとより、すべての生命存続に深刻な脅威を与えるもので、絶対に容認できるものではない。

我が国は世界唯一の被爆国として、広島、長崎の惨禍を二度と繰り返してはならないことを強く主張すべきである。

非核三原則を完全に取り、美しい郷土の自然と豊かな文化を守り、平和な未来を子供たちに引き継ぐことは、我々の責任と義務である。

ここに、幕別町は恒久の平和を願い、幸せな町民生活を守る決意を表明し、核兵器の全面禁止を求め、当町議会は「幕別町平和非核宣言」の決議を行うものである。